

日本における ユニバーサル・ミュージアムの 現状と課題

2020 オリパラを迎える前に



2019.11.3 sun. - 4 mon.

3日 13:00-18:15 (18:30 からレセプション) / 4日 9:45-17:30

会場：国立民族学博物館 第5セミナー室

参加費無料

定員：各日100名(先着順)

参加申し込み方法：裏面をご確認ください

後援：全日本博物館学会／日本博物館協会／日本ミュージアム・マネジメント学会

2020年、日本でオリンピック・パラリンピックが開催される。この国際的な大イベントをどのように迎えればいいのか。そしてオリパラをきっかけに、日本社会はどんな方向をめざすべきなのだろうか。ミュージアムは、近代文明のシンボルとして誕生した。近代とは「より多く、より速く」というトレンドの下、人間のアビリティを進化させる技術革新の時代である。そんな近代社会では、五感の中でも情報の伝達量、スピードに優れている視覚が重視されてきた。そのため、今日のミュージアムの展示でも、視覚的に見る・見せることが大前提とされている。こういった視覚優位・視覚偏重の博物館・美術館の常識を改変するのがユニバーサル・ミュージアムである。ユニバーサル・ミュージアム研究は、近代と真正面から対決する思想運動ともいえるだろう。

シンポジウム1日目はアートに注目する。アートとは本来、ユニバーサルな（誰もが楽しめる）表現手段である。1日目の三つのセッションでは主に制作者にご登壇いただき、「触」をキーワードとしてアートの本義を探る。2日目は博物館・美術館の学芸員、研究者の事例報告を中心に三つのセッションを組み、「ユニバーサル」を具体化する多様な方途について議論を深める。ミュージアムが近代文明のシンボルであるならば、そのミュージアムの存在形態を根本から問い直す研究と実践は、「近代」を超克する英知を人類にもたらすに違いない。

アートは人間のさまざまな「生のあり方」（ルート）を自由かつ柔軟に描く。多彩なルートを分類・整理し、「生」の選択肢を提示できるのがユニバーサル・ミュージアムである。シンポジウム1日目がアートの創造者、ルートを切り開く人々のセッションだとすれば、2日目はアートの活用者、ルートを踏み固める人々のセッションといえることができる。本シンポジウムが日本のユニバーサル・ミュージアムの現状を把握し、未来を展望する場になれば幸いである。

Schedule

【第1日】11月3日(日・祝) 開場12:00

- 13:00-13:15 開会挨拶 吉田憲司 / 趣旨説明 広瀬浩二郎
- 13:15-14:00 講演『「未開の知」に触れる ― ユニバーサル・ミュージアム研究の回顧と展望』
小山修三
- 14:00-15:20 セッションⅠ「彫刻を超克する ― 制作と鑑賞の新たな地平」
コーディネーター：篠原聡 パネリスト：富長敦也、北川太郎、片山博詞、高見直宏
- 15:20-15:35 休憩
- 15:35-16:55 セッションⅡ「アートで対話を拓く ― 自己と他者、物と者のコミュニケーションから」
コーディネーター：堀江武史 パネリスト：戸坂明日香、宮本ルリ子、前川紘士、加藤可奈衛
- 16:55-18:15 セッションⅢ「さわれないものへのアプローチ ― 映像・風景・宇宙の物語」
コーディネーター：大石徹 パネリスト：亀井岳、安芸早穂子、ヨーコ・ソニア、間島秀徳
- 18:30-20:00 レセプション 場所：レストランみんぱく

【第2日】11月4日(月・休)

- 9:45-10:30 講演『「+」から「×」へ ― 鑑賞と制作を組み合わせるワークショップの可能性』
半田こづえ
- 10:30-12:00 セッションⅣ「博物館を飛び出そう ― 野外活動のユニバーサル化に向けて」
コーディネーター：山本清龍 パネリスト：宇野晶、さかいひろこ、藤村俊
- 12:00-13:00 休憩
- 13:00-13:45 講演『「合理的配慮」再考 ― 世界の感触を楽しむために』
広瀬浩二郎
- 13:45-15:15 セッションⅤ「触図活用のABC ― アーティスト、視覚障害者、学芸員の協働」
コーディネーター：真下弥生 パネリスト：桑田知明、松山沙樹、岡本裕子
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-17:00 セッションⅥ「不滅のユニバーサル・ミュージアム ― 私たちが描く22世紀の博物館像」
コーディネーター：黒澤浩 パネリスト：鈴木康二、藤島美菜、堀江典子
- 17:00-17:30 総合討論 コーディネーター：原礼子

シンポジスト一覧 (五十音順)

安芸早穂子／歴史復元画家
宇野晶／滋賀県立陶芸の森調整員
大石徹／芦屋大学教授
岡本裕子／岡山県立美術館主任学芸員
片山博詞／彫刻家
加藤可奈衛／彫刻家
亀井岳／映像作家
北川太郎／彫刻家
黒澤浩／南山大学教授
桑田知明／デザイナー
小山修三／国立民族学博物館名誉教授
さかいひろこ／イラストレーター
篠原聡／東海大学准教授
鈴木康二／滋賀県文化財保護協会副主幹
高見直宏／彫刻家
戸坂明日香／アンドロイドデザイナー

富長敦也／彫刻家
原礼子／国際基督教大学非常勤講師
半田こづえ／明治学院大学非常勤講師
広瀬浩二郎／国立民族学博物館准教授
藤島美菜／愛知県美術館主任学芸員
藤村俊／美濃加茂市民ミュージアム学芸員
堀江武史／府中工房代表
堀江典子／佛教大学准教授
前川紘士／美術作家
間島秀徳／日本画家
真下弥生／ルーテル学院大学非常勤講師
松山沙樹／京都国立近代美術館特定研究員
宮本ルリ子／陶芸作家
山本清龍／東京大学准教授
ヨーコ・ソニア／アーティスト

お申し込み方法

「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題」と明記の上、以下の記入事項を添えてメール又はFAXでお申し込み下さい。2名様以上でお申し込みの場合は、各自記入事項を明記下さい。

10月上旬にはメール又はFAXにて参加の可否をお知らせいたします。

※応募者が多数の場合はご参加いただけないことがあります。

【記入事項】

- ①氏名
②連絡先電話番号
③メールアドレス又はFAX番号
④所属（任意）
⑤参加希望日
【宛先】

Email : um2019@minpaku.ac.jp
FAX : 06-6878-8479

【お問い合わせ】

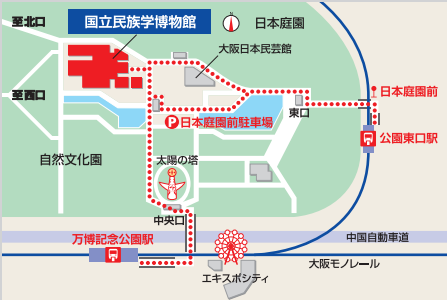
国立民族学博物館 グローバル現象研究部 (広瀬)
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話：06-6878-8437

ご利用案内

- 開館時間
10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日
水曜日（水曜日が祝日の場合は、翌日が休館）
- 観覧料
一般 580 円／大学生 250 円／高校生以下 無料
＊観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール
「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分
- バス
阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車
万博記念公園の駐車場（有料）をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
＊「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
- ＊大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
＊小・中・高校生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんぱくへ行くことを申し出いただき、通行証をお受け取りください。
＊東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
＊自然文化園(有料区域)をご利用される場合は、同園入園料が必要です。



 **国立民族学博物館**
National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
Tel: 06-6876-2151(代) Fax: 06-6875-0401
<http://www.minpaku.ac.jp/>